

## 令和5年度農林水産技術会議結果概要

### 水産技術センター

開催日	令和5年6月21日	開催場所	水産技術センター相模湾試験場
部会名	研究課題設定部会		
評価課題	定置網漁業のリアルタイムモニタリングシステムの開発とスマート化		
評価委員	東京海洋大学学術研究院 教授 株式会社川長水産 代表取締役社長		
評価概要	<p>○神奈川県は定置網漁業は沿岸漁業の約7割と、全国平均の4割より高く重要な漁業であることから神奈川県の水産業や県民からみた重要性は高く、定置網漁業の操業合理化に繋がるプロジェクトであり、ニーズに即した研究内容で重要性は高いと思われる。</p> <p>○ユビキタス魚探やカメラ撮影などは、先行事例があるので今回の事業のどこが目新しいか整理してもらおうと新規性や先進性が見えてくる。</p> <p>○定置網漁業は日本全国にあり、本研究が成功すれば全国的に波及すると期待される。令和2～4年度に国の数量管理事業で取り組んでおり、技術ベースがあり、研究計画は適切と考えられる。ソフトの開発もノウハウがあり、実現可能と考えられる。</p> <p>○現場で試験している者として、国の数量管理事業で試験協力して、ユビキタス魚探やカメラ、流向流速計を取り付けている。このシステムは経営に貢献しており、漁業者のニーズはあると考えている。コストの問題もあるが、今後も設置したいと考えている。</p> <p>○大きい面で見れば、相模湾全体で潮の流れや魚の動きなども細かくわかるだろうし、そういう面でも役立つと思っている。できるだけ安価で普及してもらおうと漁業者にとってすごく助かる。引き続き研究を進めてもらいたい。</p>		

開催日	令和6年3月8日	開催場所	水産技術センター内水面試験場
部会名	研究成果評価部会		
評価課題	魚類等による溪流環境の評価手法の研究開発		
評価委員	元東京海洋大学海洋科学部 助教) 神奈川県内水面漁業協同組合連合会 参事		
評価概要	<p>○今回の研究結果から、当歳魚の時期は定性的な河川環境の指標となることが分かってきた。また、河川環境が厳しい丹沢であるが、思ったよりも魚が多く、魚を増やせる環境であることも分かった。</p> <p>○今後、魚類等による溪流環境の評価手法の開発にあたり、河畔林の状況、流速・流量・底質の形状などの物理的環境、放流魚の状況、過去の工事の影響など総合的に考慮し、土木サイドとの連携も含め丹沢にマッチした新しい研究方法・解析方法を考える必要がある。</p> <p>○研究成果を聞いて、大変な調査をされていたのだと感心した。</p> <p>○内水面では釣り人はアユ釣りから溪流釣りへ移っていく背景がある。溪流魚の有効な放流手法や適正な管理が分かれば漁場管理にも活用できる。この結果をもとに組合に指導してほしい。漁場利用がうまくいけば組合も喜ぶので、今後は組合も巻き込んでいけばよい。組合には若い人が多いので協力してくれるのではないかな。試験場の人の少なさをカバーできる。そうやってより良い成果が得られるよう取り組んでいただきたい。</p>		